

1. はじめに

マット運動は、回転・支持・バランスなどの単技や組み合わせ技に取り組み、できるようになる楽しさや技の「できばえ」を楽しむことができる克服型、達成型、探求型の運動である。技ができたことやできた技を続けたり組み合わせたりすることに喜びを感じることができる。

本学級の児童は、運動好きな児童が多い。しかし、根気強く物事に挑戦したり努力し続けたりすることや友だちが試技する姿から考えたり学んだりすることができなかつたりする児童が多かった。

そこで、「わたしたちの体育」のできた技のところにシールを貼っていったり、友だちとグループになって学習したりすることで楽しく学習できたり、友だちと互いに見合ったり補助し合ったり、よい手本を見たりしながら学習することで、効果的に技能を伸ばすことができると考え実践していった。

2. 指導の実際

(1) 単元の計画

	1	2	3	4	5	6
主な学習活動	・ マット運動を行うための約束 ・ オリエンテーション	活動①自分の課題を明確にしながら、課題にあった練習方法をつかみ、基礎的な技能を身に付ける。			活動②身に付けた技能を生かしながら、技を組み合わせ連続技に挑戦する。	
		単技の練習 前転・後転・開脚前転 開脚後転 側方倒立回転 倒立前転				
				連続技の練習 個人で組み合わせた連続技		加茂っ子マット発表会

(2) 指導の工夫

○「ふり返り板」の活用

横軸に「楽しさ」縦軸に「できばえ」の2項目で振り返り、友だち同士で話し合う場を設定した。

○「小学校体育（運動領域）デジタル教材」（文部科学省）や「わたしたちの体育」の活用

「わたしたちの体育」に載っている技の解説や習得するためのポイントや「小学校体育（運動領域）デジタル教材」の動画をいつでも見ながら練習に取り組むことができる場を設定した。

○「わたしたちの体育」の感想欄の活用

毎時間わたしたちの体育の感想欄に「意識して練習したこと」「次に意識して取り組みたいこと」を書き交流した。

3. 成果（◎）と課題（☆）

◎「小学校体育（運動領域）デジタル教材」の動画や「わたしたちの体育」の挿絵にある習得するためのポイント、互いの実技を友だちと見ながら練習に取り組んだことにより、個人の課題が明確になり、効果的に練習に取り組むことができた。また、友だちと協力、工夫して練習に取り組む姿が見られた。

◎「ふり返り板」を使って友だちと共にふり返ることにより、友だちの困り感を共有することができた。「楽しさ」や「できばえ」のポイントが低い友だちに対して、次時の練習の仕方を一緒に考えたり、技を習得するためにアドバイスをしたりする姿が見られた。

◎以上のことから、「わたしたちの体育（教科書）（DVD）」を工夫して活用することにより、友だちと楽しく学習し合い（毎時間「楽しさ」のポイントは高かった）ながら、意欲的に継続して練習に取り組む（右上写真「ふり返り板」参照）、効果的に技能を伸ばすことができたと考えられる。短い時間であったが児童はみるみる技能を伸ばしていった。

☆さらに、児童が、向上心（難易な組み合わせを考えたり、難しい技に挑戦したいという意欲を持ったり）を持って学習に取り組んでいくための授業づくりや場づくりをしていきたい。



ふり返り板（個人）